

ぶらたなす

NO.2

皐月

(さつき)

長井高等学校

図書委員会

図書館

2023. 5. 31

晴耕雨読

桜が散り、青い木々が映える季節となりました。高体連や前期中間テストなど、様々な行事が慌ただしく続いていた5月でしたが、長井高校のみなさんにとっての5月はどうのような1カ月であったのでしょうか。

6月といえば梅雨の時期がやってきます。毎日続く雨天日で、女子のみなさんは髪がハネたりと注意を払うことが多くなる時期でもありますね。しかし、西山の方向に住んでいるみなさんには経験があるかもしれません。夜に聴こえるカエルの鳴き声や雨の音を心地よく感じ、眠りにつく人もいるのではないのでしょうか。ぜひそんな6月の月日も本を手にとって過ごしてみてください。

(2-2 図書委員)

図書委員のおすすめの本

『掬えば手には』
瀬尾まいこ：著 講談社

「ナンバーワンにもオンリーワンにもなれる要素がなくて、個性といわれるものは何も持ち合わせていない。」主人公、梨木匠は平凡であることに悩んでいたが、中学3年のとき、人の心が読める能力に気づいた。そして、この能力でたくさんの人を助けてきたが、バイト先で出会った常盤さんの心だけは読むことができない。常盤さんのために、梨木は行動していく。

誰でも、同じように自分にも何か“力”があれば良いのにと考えたことがあるだろう。この本を読んで、目に見えるものだけがその人の“力”ではなく、その人の行動も“力”で、その人の魅力になることがわかった。ぜひ読んでもらいたい。

(2-1 図書委員)

発表！第20回 本屋大賞

第1位

『汝、星のごとく』 凧良ゆう：著
講談社

第2位

『ラブカは静かに弓を持つ』
安壇美緒：著 集英社

第3位

『光のところにいてね』 一穂ミチ：著
文藝春秋

待望の本屋大賞の順位が発表されました。今回の第1位は二回目の受賞で凧良ゆうさんでした。『汝、星のごとく』は17歳の男女の恋からはじまり、瑞々しい感性と青春のゆらぎの中、人生の決断を重ねていく物語です。図書館に用意されていますので、読んでみたい人はぜひどうぞ。

新刊図書からおすすめの本

『核のごみをどうするか』：もうひとつの原発問題 今田高俊・寿楽浩太・中澤高師：著 岩波書店

原子力発電を推進するのか、脱原発を望むのか議論が分かれているところではありますが、現在蓄積されている核のごみ（高レベル放射性廃棄物）の処分について、考えたことがありますか。

新聞等の報道で核のごみ処分場候補に応募する自治体がないことはみなさんも知っているかもしれませんが。原子力発電が初めて稼働した当初は、日本の技術により、核のごみ処分については容易であると考えられてきました（本文より）。また、ごみよりも原子力発電施設の安全性について重要視され、核のごみは原子力発電稼働以来30数年間問題を放置されてきたことを本書では危惧しています。

原子力発電・核のごみの問題について本書を読み、考えてみませんか。